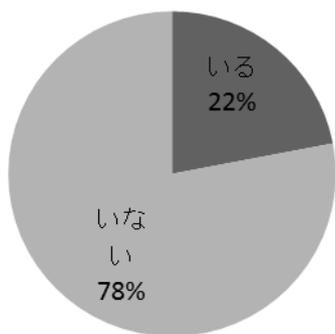


# 平成25年度「家庭教育支援等に関する調査」集計結果（保護者用）

◇有効回答数：7,127（※グラフの<n=>は設問ごとの有効回答数）

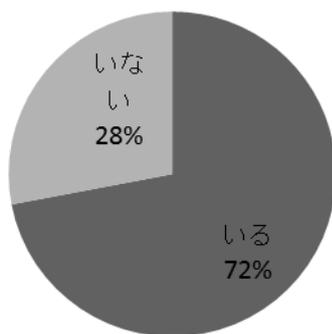
問1 子どもの教育に関する意識についてお尋ねします。次の項目それぞれ「いる」、「いない」のいずれかに☑をつけてください。

a. 子どもの教育に悩み、不安や孤立感を感じている



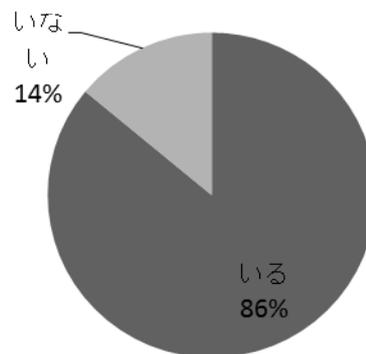
n=7050

b. 子どもの教育に必要な知識や意欲を有している



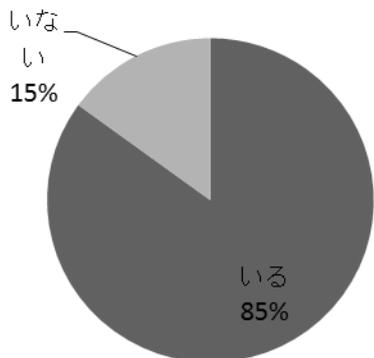
n=6982

c. 家族で協力しながら子どもの教育ができている



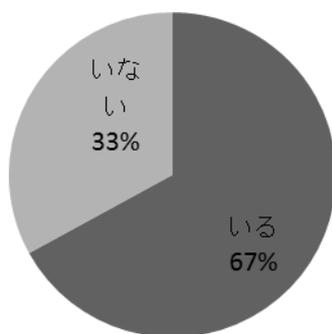
n=7045

d. 学校と協力しながら子どもの教育ができている



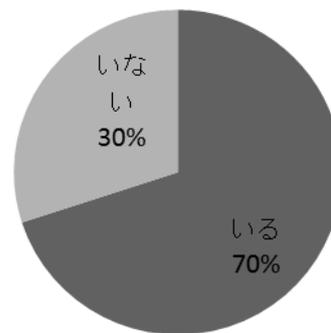
n=7018

e. 地域とつながりながら子どもの教育ができている



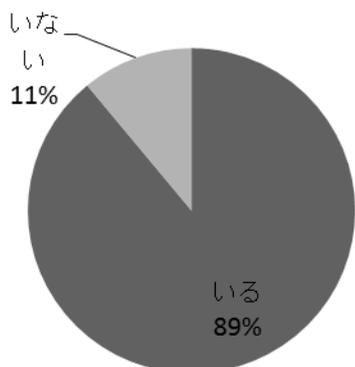
n=7009

f. 子どもの教育に関して必要な情報を入手できている



n=7008

g. 子どもの教育に関して身近な相手と相談できている



n=7048

子どもの教育に悩み、孤立感を感じている保護者は少ない（22%）。ほとんどの保護者は、教育に必要な知識を有していると考え、家族や学校・地域との関係もできていると感じている。

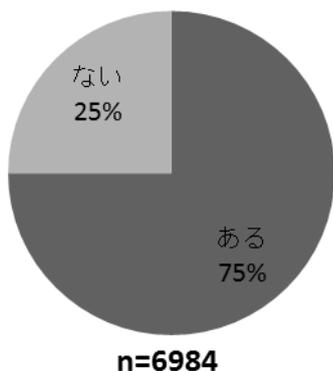
この結果だけを見れば、さほど保護者は教育に困っていないのではないかという印象があるが、後ほど述べる教員の調査結果と比較すると大きく差がある。教員から見た「悩みや不安、孤立感がある」と感じる保護者の割合は60%であった。

設問のし方が直接過ぎて、「いる」と回答した人が少なかったのかも知れない。

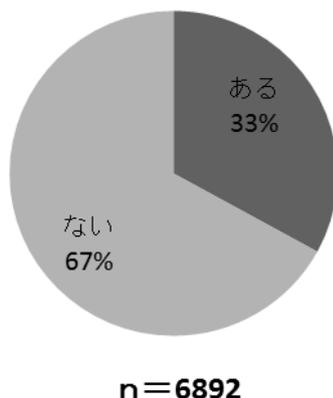
ただ、実際にbの「教育に必要な知識がない」（28%）、fの「必要な情報入手できていない」（30%）等の本来支援すべき人たちは存在する。

**問2** 子どもの教育に対して関心のあることは次のいずれですか。次の中から3つを選び☑をつけてください。

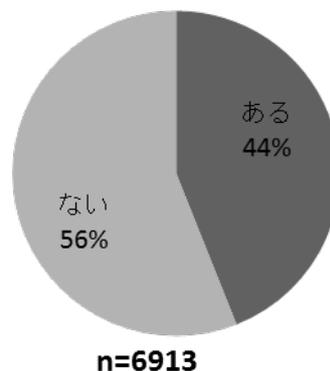
a. 学力向上



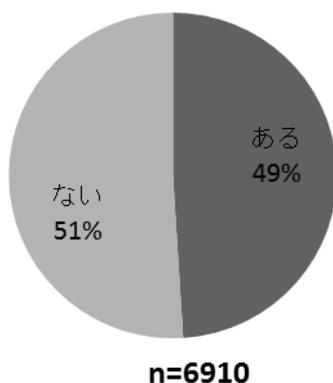
b. 体力向上



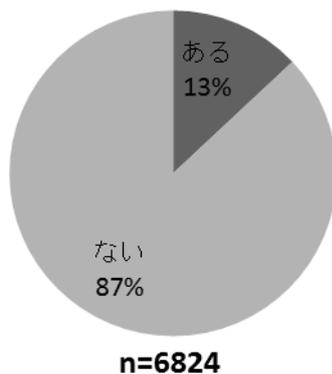
c. 健康



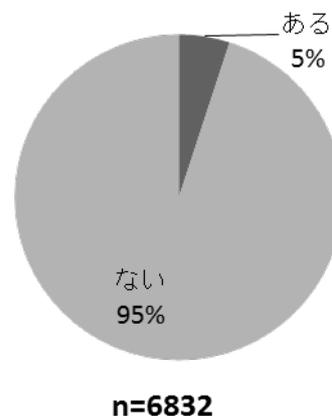
d. しつけ



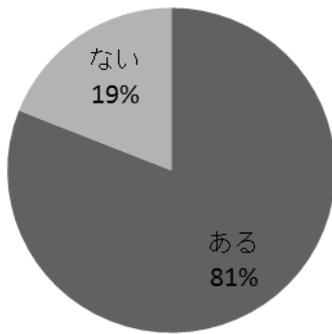
e. 進学



f. 非行

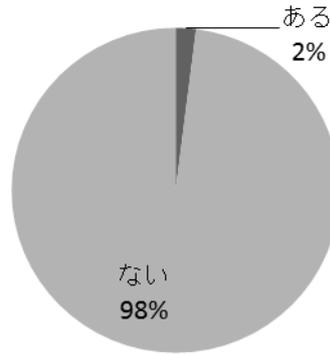


g. 友達関係 (遊び・いじめ  
など)



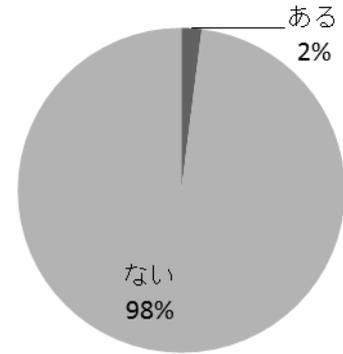
n=6968

h. 子どもが学校生活になじ  
めない



n=6811

i. その他



n=6806

※問2 その他回答者

- ・ 集団生活を身につける…8人
- ・ 教員の指導方法…7人
- ・ コミュニケーション力…7人
- ・ 先生との信頼関係…6人
- ・ 基本的な生活習慣や生活力…6人
- ・ 自己肯定力…4人
- ・ 自立、自律…4人
- ・ 心の教育 (道徳など) …4人
- ・ 先生と子供の信頼関係…4人
- ・ 勉強や運動に限らず子どもの特技を生かせる活動…3人
- ・ 部活動や委員会活動…3人
- ・ 好奇心や意欲を持たせること…3人
- ・ 学校で楽しく過ごせているか…3人
- ・ 生きる力を身につけること…3人
- ・ 心の発達…2人
- ・ 食育…2人
- ・ 習い事との両立 (部活が始まったため) …2人
- ・ 国際感覚…2人
- ・ 進路、将来…2人
- ・ 人に対する思いやりや気づかい…2人
- ・ その子らしく生活できているかどうか…2人
- ・ 子供の長所を伸ばし、将来につなげるために今何をさせるのが良いのか…1人
- ・ 優しい子に育つよう、楽しく生活できるよう…1人
- ・ EQ…1人
- ・ 金銭感覚、価値観…1人

- ・集中力…1人
- ・発達の遅れによるハンディキャップ…1人
- ・家事力…1人
- ・親子関係…1人
- ・メンタル面…1人
- ・子どもがクラスになじめない…1人
- ・不登校…1人
- ・他人に迷惑をかけない、安全教育…1人
- ・教育費用（お金）…1人
- ・人間力の育成…1人
- ・リーダーとしての資質の向上…1人
- ・個性…1人
- ・英語教育…1人
- ・友達の親の教育に対する考え方や態度…1人
- ・日本文化を学ぶこと…1人

gの「友達関係」（81%）とaの「学力向上」（75%）に親の関心が高い。

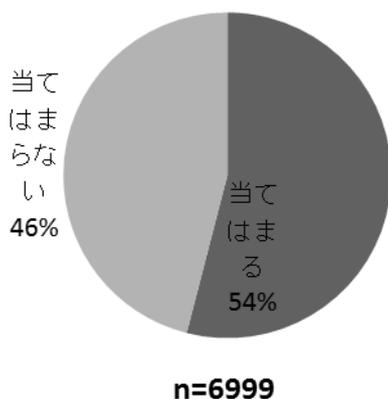
続いて、dの「しつけ」（49%）、cの「健康」（44%）の順であった。

「友達関係」が多かったのは、‘いじめ’というキーワードに反応があったことも考えられるが、保護者の関心として子どもの交友関係に対して関心が深いことは当然である。

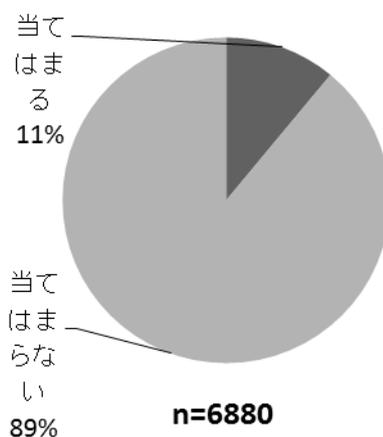
また、「その他」の回答に40項目以上の内容が挙げられ、特に子どもの長所、個性を伸ばすような項目が多く挙げられていた事は特記すべきである。

**問3** 子どもの教育に関する必要な知識を、どのように習得していますか。次の当てはまるものすべてに☑をつけてください。

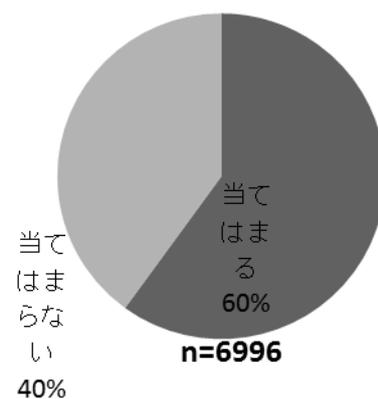
a. 学校の先生



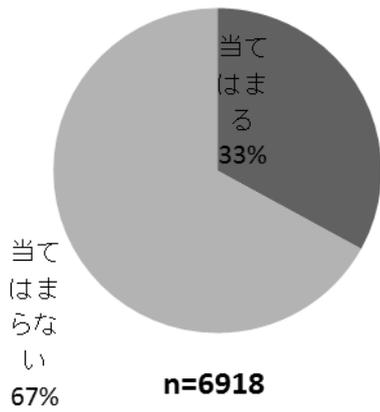
b. 公共や民間の講座・セミナーなど



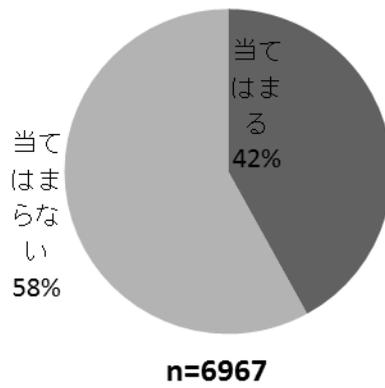
c. 新聞記事・テレビ番組など



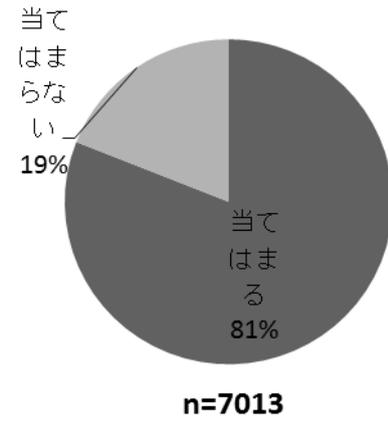
d.書籍



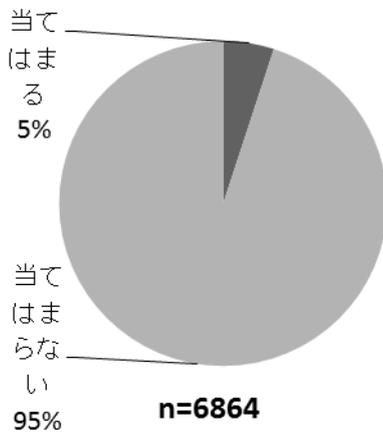
e.親や親戚



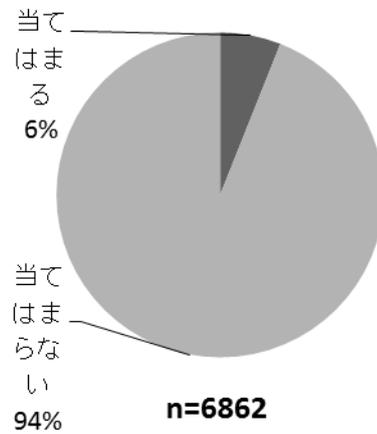
f.友人・知人との情報の交換



g.特に学習していない



h.その他



※問3 その他回答者

- ・インターネット…245人
- ・塾の先生…61人
- ・通信教育…31人
- ・自身の経験…16人
- ・習い事の先生…7人
- ・医師・看護師…5人
- ・家庭教育学級…4人
- ・自分の学生時代の知識…3人
- ・職場…3人
- ・SNS…2人
- ・人生全てから…2人
- ・幼稚園の先生…2人
- ・学童…2人

- ・親の会…1人
- ・教会…1人
- ・保健士と定期的に連絡を取っている…1人
- ・地域の教育講座…1人
- ・学校のママ学級…1人
- ・学習DVD…1人
- ・親の常識内…1人
- ・療育施設…1人
- ・ブロ友…1人
- ・NPO まつど…1人
- ・ラジオ…1人
- ・教育研究所…1人

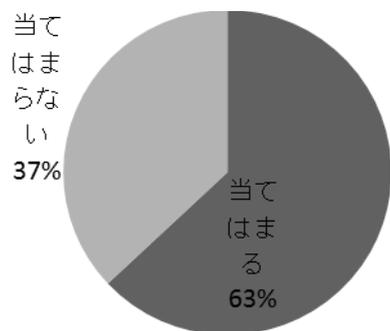
子どもの教育に関する知識は、友人・知人からの情報が圧倒的であり、8割以上を占めている。この結果から子どもの教育、知識の習得・獲得においては、地域における仲間作りが重要となってくるものと考えられる。しかしながら、学校や社会教育が信頼に足る教育・啓蒙活動をしなければ、知識の情報交換でなく噂の情報交換になることが懸念される。ここにも松戸が行っている家庭教育学級の意義が見えると思う。

その他では、cの「新聞記事、テレビ番組など」の項目が最も多く、さらに「その他」の項目でインターネットによる習得が多く挙げられていた。一方、書籍を用いた情報習得の割合は低い回答率であった。このことから、現在の保護者は、新聞・テレビ・インターネットなどから多くの情報を得ていることが伺える。f「友人・知人との情報の交換」にしても、SNS等のインターネットを利用した情報交換が多いのではないかと懸念される。情報発信にあたっては、これらのメディア、特にインターネットを活用することが必要であろう。

aの「学校の先生」は約半数と意外に少ないが、これは学校からの情報発信量が少ないためと思われる。今後、教職員の研修の充実とともに学校からの情報発信を増やしていかなければならない。

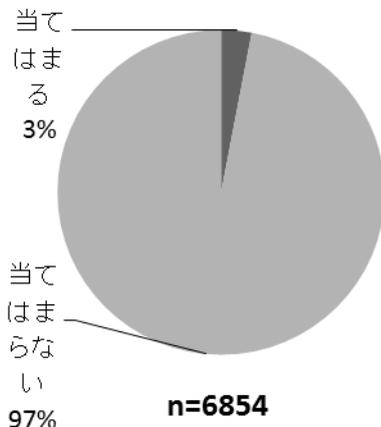
問4 子どもの教育に関する相談を誰（どこ）にしますか、もしくはしようと思いませんか。次の当てはまるものすべてに☑をつけてください。

a. 学校の先生



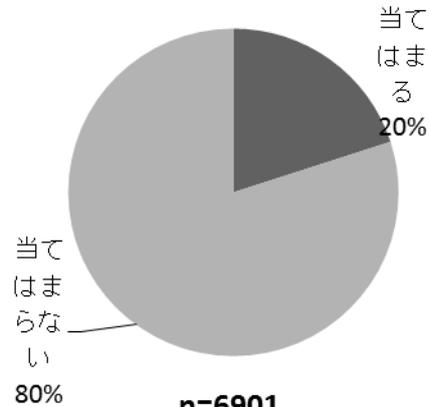
n=7013

b. 教育委員会や市役所



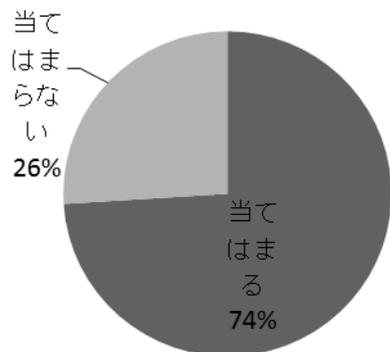
n=6854

c. 塾や教育の専門家（機関）



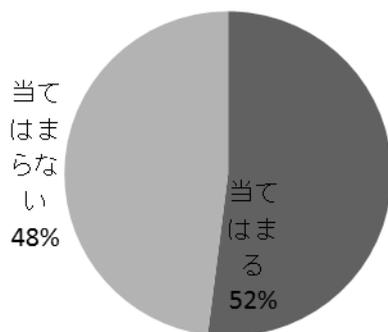
n=6901

d. 配偶者



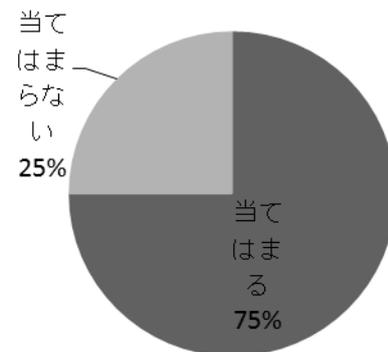
n=7021

e. 親や親戚



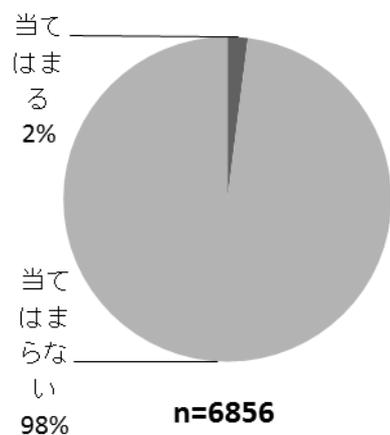
n=6988

f. 友人・知人



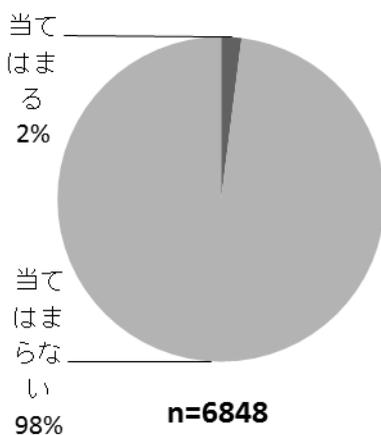
n=7035

g. 特に相談しない



n=6856

h. その他



n=6848

※問4 その他回答者

・インターネット…13人

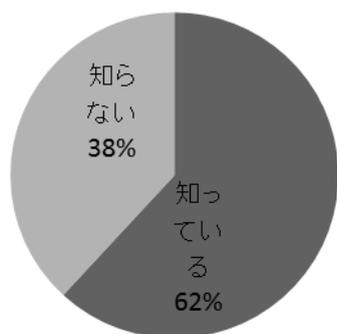
- ・親の兄弟…12人
- ・病院…9人
- ・学童の先生…9人
- ・塾の先生…4人
- ・地域…3人
- ・幼稚園の園長や主任…2人
- ・保健士…2人
- ・親の会…1人
- ・子供の将来の夢に近い仕事をしている人…1人
- ・発育センターの先生…1人
- ・同僚…1人
- ・ブロ友…1人
- ・ファミリーサポート…1人
- ・保育園(担任)の先生…1人

問3の教育に必要な知識の習得先と同様に、身近な友人・知人に相談する保護者が多い。しかし、問1で見たとおり「悩みや不安、孤立感を感じている」保護者が少ないので、ここでの相談内容についてはあまり深刻なものではないと推測される。

a「学校の先生」がc「塾や専門機関」の3倍以上になっていることから、問3同様、教師はどんな相談にもきちんと応じられる資質・力量を身につけなくてはならない。

ただ、保護者の相談先として知人・友人が先生より高いのは、多くの場合、学校の先生は勤務時間内での相談に限られることが原因であることも考えられる。

**問5 あなたは、保護者が主体となって子どもの教育に関する仲間づくりや学習活動を行う「小学校家庭教育学級」があることを知っていますか。**



n=7089

各学校では、色々な工夫をして家庭教育学級についてお知らせしているにもかかわらず、「知っている」という回答が62%というのは、決して高くない。

認知度が低いのでまず、ここを上げないことには「家庭教育学級」自体が広がってこない。知るといふこと、特に正しく知っていただくこと。何のために、どういう効果を期待してやっているのかということ保護者に周知することが重要である。

そのために、学校と社会教育との連携の視点、また、松戸市の家庭教育学級の特徴を考えると、学校がもっと教職員に周知し、保護者会や学級懇談会等で趣旨や内容を伝えることに力を入れる必要を感じる。ホームページの活用や通知（チラシ）に関しても、ビジュアル的に保護者世代の人たちが目に入ってきやすい工夫は必要である。

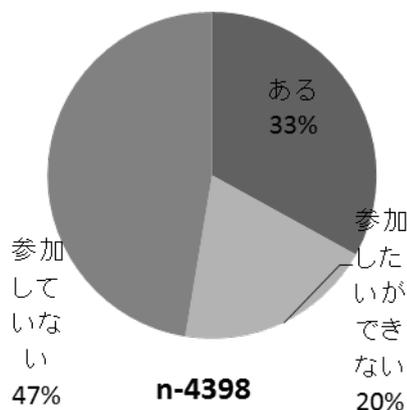
家庭教育学級の認知率で38%の人が、家庭教育学級を知らないと答えている。

どのような人が、認知していないかについて、プロビットモデル(※注)による推計を行った結果、「教育について知識がないと感じている人」、「教育に関する情報を得られていない人」など、家庭教育学級で本来支援すべき人たちの認知率が低い。また、働いている人や、経済的に苦しい人なども認知率が低い傾向にある。

また1～2年生は、情報に触れる機会が少ないためなのか認知率が低くなる傾向にある。

以上のことから、家庭教育学級の制度は、本来支援すべき人たちの認知が低く、そういった人たちの認知を高めなければならない課題が見える。

**問6** 問5で「知っている」と答えた方にお聞きします。小学校家庭教育学級に参加したことはありますか。次のいずれかひとつに☑をつけてください。



**※注**

プロビットモデルや多項ロジットモデルを含む離散選択モデルは、いくつかの限られた選択肢の中から1つが選ばれる事象についてその要因を分析するときによく用いられる統計的手法である。プロビットモデルは、喫煙するかしないかのように選択肢が、0か1の2択の時に用いられる。多項ロジットモデルは、東京から大阪までの交通手段(新幹線・飛行機・バス)のように、複数の選択肢から1つが選択され、その選択肢に順序付けができない時に用いられる。

家庭教育学級を知っている割合が 62%で、実際に参加したことがある割合は 33%。つまり、実際に参加できている保護者は約 2 割に過ぎず、多くの保護者は、知らない、または、参加できない状況にあることが明らかとなった。

家庭教育学級を知っている人たちのうち、どのような人が「参加する」、「参加したいができない」、「参加しない」のどれを選びやすいのかについて、多項ロジットモデル(※注)により分析した。その結果、

①教育に不安のある人、家族と協力して教育ができていない人が、参加したがる傾向がある。

⇒認知さえしていれば、本来参加すべき人の関心は高い

②地域と協力して教育ができていない人が参加しにくい。

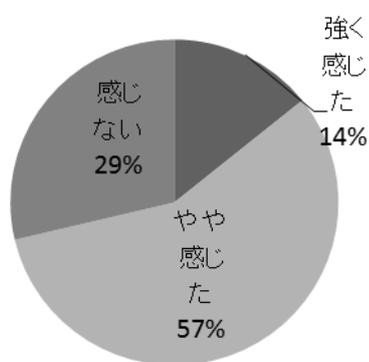
⇒地域とのつながりがない人は、人づきあいが苦手なため、参加しにくい。

③また、経済的に苦しい人、働いている人は、参加しにくい。

以上から、参加すべき人の関心は高いが、働いている人たちも参加できる日程にするなど、調整が必要だろう。

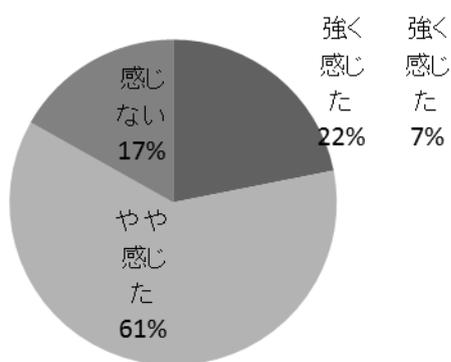
問7 問6で「ある」と回答した方で学級が行う学習会等に参加して、子どもの教育に関してどのような効果を感じましたか。次の「a～g」それぞれについてお答えください

a)悩みや不安、孤立感がなくなった。



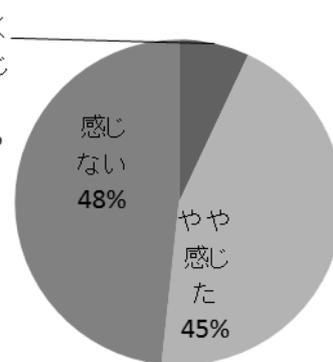
n=1577

b)必要な知識や意欲をえられた。



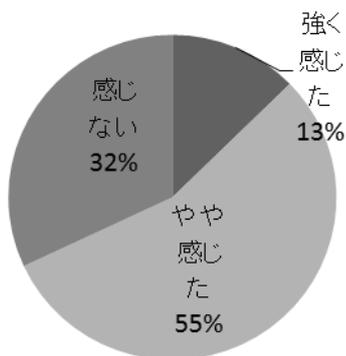
n=1578

c)家族で協力しながらできるようになった。



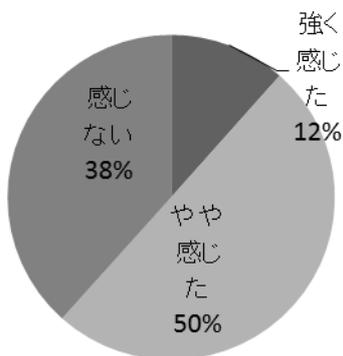
n=1572

d)学校と協力しながら  
できるようになった。



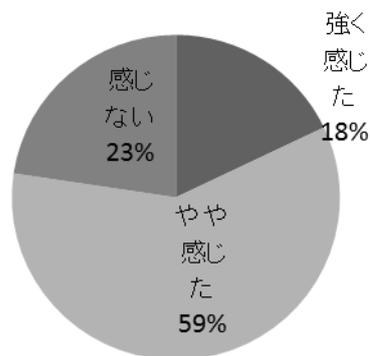
n=1575

e)地域とつながりを持ち  
ながらできるようになった



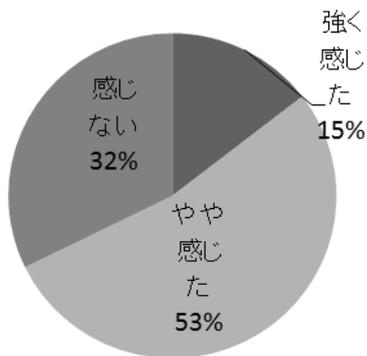
n=1573

f)必要な情報を入手で  
できるようになった。



n=1577

g)身近な相手に相談で  
できるようになった。



n=1574

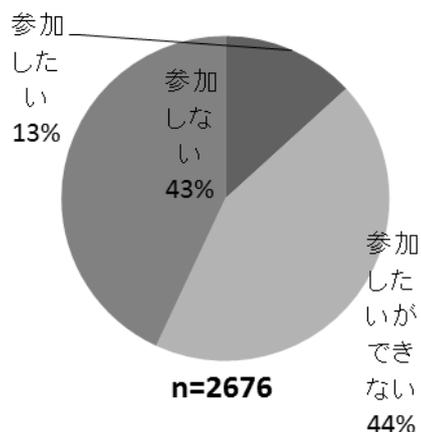
参加した保護者は、おおむね効果があったと回答している。「知識や意欲の獲得」、「家族、仲間への相談ができた」、また「地域とつながりを持てた」という有効な成果をあげている。

家庭教育学級の開設の目的は「学びあい」と「仲間づくり」である。この設問で見ると「学びあい」はbとf、「仲間づくり」はaとe、gである。このことは家庭教育学級の成果である。

今後の課題として、まず認知度を向上させること、次いで参加率を上げることに、より重点をおいて検討する必要がある。

問8 問5で「知らない」と回答した方にお聞きします。小学校家庭教育学級とは、以下の取り組みのことです。あなたは、これを読んで家庭教育学級に参加したいと思いますか。

(※家庭教育学級の説明については、巻末の【保護者用】アンケートの問8を参照してください。)



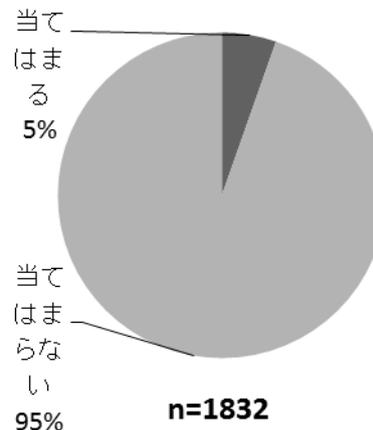
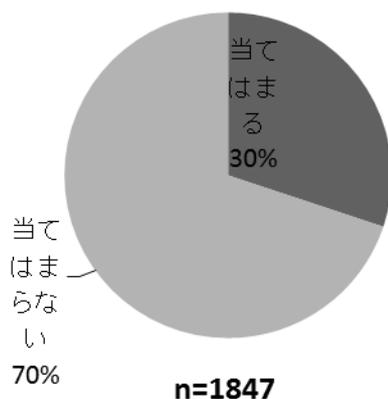
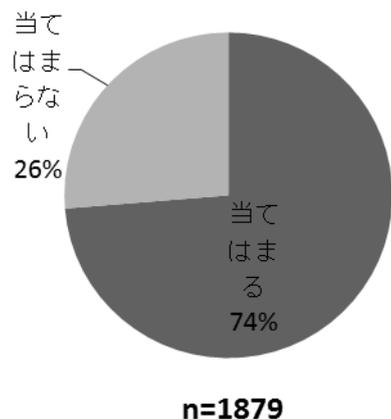
家庭教育学級を知らないと応えた人のうちの13%、全体に換算すると約5%が「参加したい」という回答をしていることから、更に家庭教育学級の広報活動の必要性を感じる。

問9 問6または問8で「参加したいができない」と回答した方の理由を伺います。次の当てはまるものすべてについて☑をつけてください。

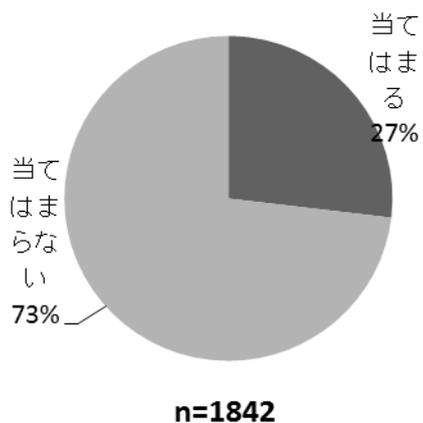
a) 仕事で忙しい

b) きょうだいの育児で忙しい

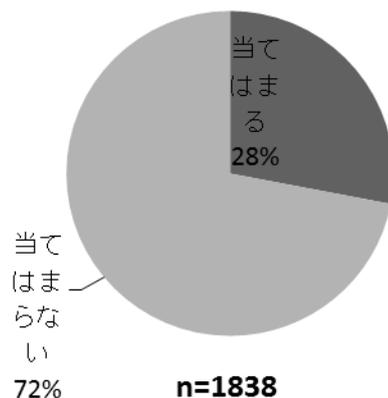
c) 介護など家庭のことで忙しい



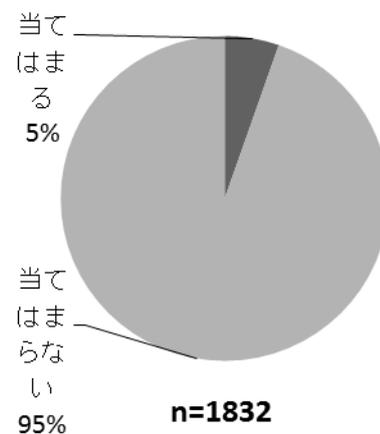
d) 開催する曜日が合わない



e) 開催する時間帯が合わない



f) その他



※問9 その他回答者

- ・私が病気のため…14人
- ・開催日、時間が分からない…6人
- ・不特定に用があるので…6人
- ・外国人だから言葉がわからない…6人
- ・仕事の関係で…5人
- ・学級長、運営員等、前が出るのが苦手…4人
- ・くわしい内容が不明…4人
- ・内容がよく分からない…3人
- ・妊娠中なので…3人
- ・療養中…2人
- ・ひとり親なので平日は仕事のため土日なら参加できる…2人
- ・子どもだけの参加ならぜひ頼みたいのですが、親も一緒にとなると難しい…2人
- ・入学したばかりでまだ良くわかっていない…1人
- ・仕事以外の習い事の役員の仕事等…1人
- ・引っ越してきたばかり…1人
- ・習い事…1人
- ・ゆとりがない…1人
- ・打ち合わせ等の後に必ずランチ等にみんなで行くという噂を聞いた…1人
- ・すでにあるグループに参加しづらい…1人
- ・目的が不明確…1人
- ・金銭的…1人
- ・友人と一緒に参加したいが都合をつけるのがむずかしい…1人

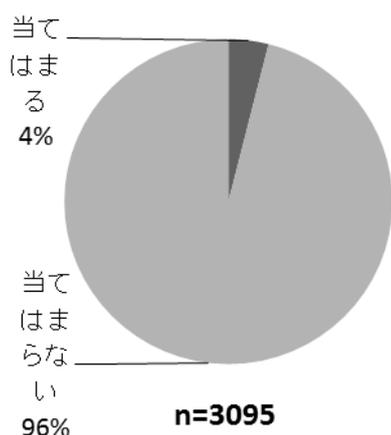
aの「仕事で忙しい」が74%で一番多い。属性の中の「専業主婦（夫）」が40%弱ということで「共働き」が多いためと考える。

d「開催する日が合わない」、e「開催する時間が合わない」の回答が27~28%にすぎなかったのは意外な結果であった。ただ仕事の理由が一番多いことから、今後、仕事を持つ母親（保護者）のニーズにあった家庭教育学級のあり方を検討しなければならないだろう。

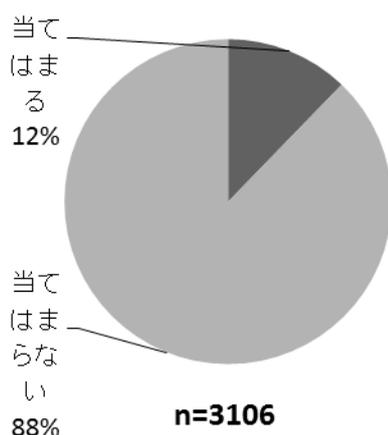
一方、「家庭教育学級」の効果あるいは、こういうことができるというのを正しく理解していないのではないか。逆にいうとそういうことをきちんと理解していただけるような情報提供をしていかなければならない。

**問10** 問6で「参加していない」または問8で「参加しない」と回答した方の理由を伺います。次の当てはまるものすべてについて☑をつけてください。

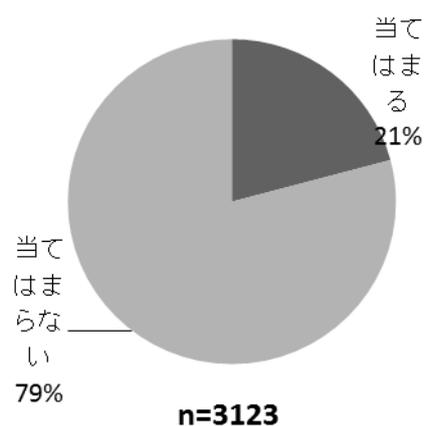
a) 十分知識を有しているため



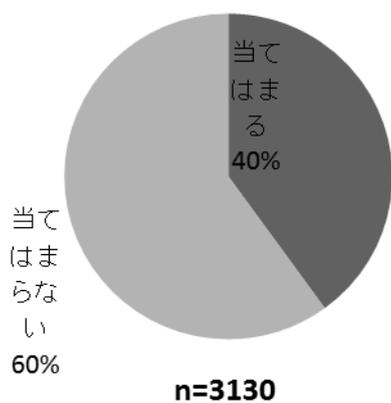
b) 効果が期待できないため



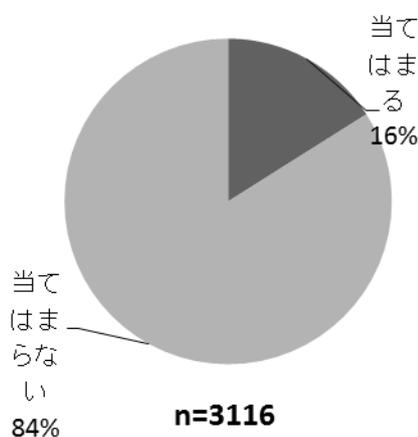
c) 人と交わることが苦手なため



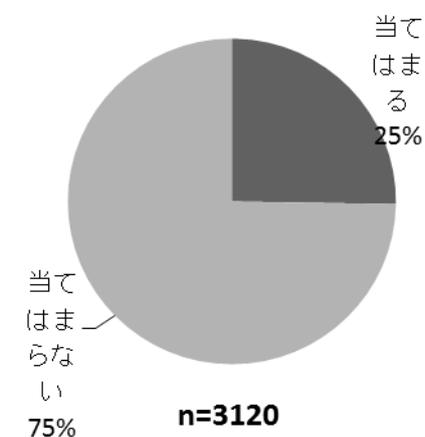
d) 興味がないため



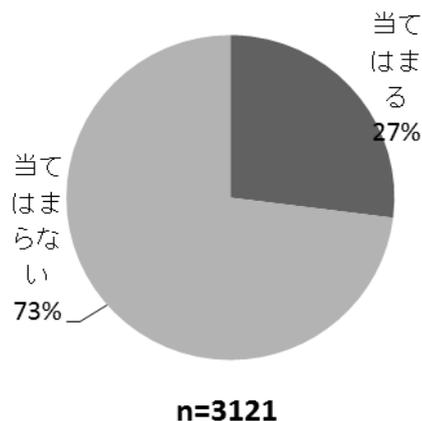
e) すでにグループがあり、参加しにくい



f) 知り合いがいないことで参加しにくい



### g) その他



#### ※問 10 その他回答者

- ・仕事があつて参加できない…274 人
- ・忙しいから…157 人
- ・下の子どもがまだ小さいため…44 人
- ・開催されている日時が合わない…39 人
- ・何を目的としているのか分からない…33 人
- ・運営側の仕事をしなければならないから…26 人
- ・今のところ必要性を感じてはいない…16 人
- ・興味がない…15 人
- ・面倒だから…14 人
- ・人間関係…6 人
- ・学校のボランティア活動や係等で満足しているため…4 人
- ・興味のある内容なら参加したいと思う…4 人
- ・何となく…4 人
- ・今のところ参加したい内容が特にないため…3 人
- ・子供も参加したがる…3 人
- ・相談相手が他にいるので…3 人
- ・介護…3 人
- ・4月に登録しなかったが、参加できるなら参加したい…2 人
- ・PTA, 町会の役員で時間が取られ、これ以上の参加はできない…2 人
- ・新たな仲間作りの必要性を感じない…2 人
- ・うつ病などの精神的病気のため…2 人
- ・学級活動の効果を理解していないため…2 人
- ・家庭の事情…2 人
- ・参加した人の話をきくくらいでよい…2 人
- ・参加するタイミングをのがしているため…2 人
- ・色々な所から情報が入っているから参加しなくても大丈夫と思っている…2 人
- ・必要な知識は積極的に吸収しているので、あまり必要性を感じない…2 人
- ・別機関で興味のあるものに参加している…2 人

- ・「子供の教育に関する仲間作り」のような活動には思えなかった…1人
- ・委員決めが大変…1人
- ・意見を述べたり、話し合いをするのが苦手なため…1人
- ・忙しい時間を割くほどの魅力を感じない…1人
- ・いつ、どのようなことをやっているのか、すぐに思いつかない…1人
- ・大人向けだと思わなかった…1人
- ・親が一生懸命やり過ぎることが子供の無関心につながっているような気がする…1人
- ・親同士で仲良くする必要性を感じない…1人
- ・親の交流が目的のように見えたので…1人
- ・学校の先生より、塾の先生の方が知識が豊富だから…1人
- ・堅いイメージで参加しづらい…1人
- ・参加した方の感想が、いまひとつだったそうなので…1人
- ・保護者主体では悩みも相談できない…1人
- ・障害があるため…1人
- ・知り合いがいるのか(参加しているか) わからないため…1人
- ・税金の無駄…1人
- ・祖母が母親役をしているため親子ほど年齢の違う中に入っていけない…1人
- ・不登校で発達障害、学習障害があるため…1人
- ・保護者主体とあるが、悩み事など、その主体となっている方に知られるのも嫌だなという気持ちが少しあるため…1人
- ・わざわざ中途半端に身近な方々と個人的な教育に関する話しをしたくない…1人

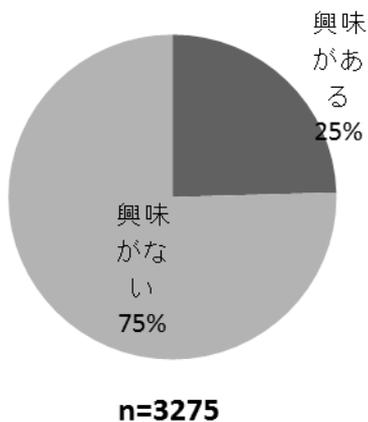
d「興味がない」と答えた人は40%、g「その他」の記述項目で、『仕事関係』と答えた人は全体の15%であった。

そのほかに、明らかに勘違いをしているとみられる記述がかなりある。家庭教育学級に対して正しく理解されていないと思われる意見として、『堅いイメージで参加しづらい』、『大人向けだと思わなかった』、『大変そう』、『何を目的にしているかわからない』などがあつた。これらの結果を勘案すると、今後は家庭教育学級の内容に関する正しく解りやすい情報提供（広報）のあり方について検討する必要がある。

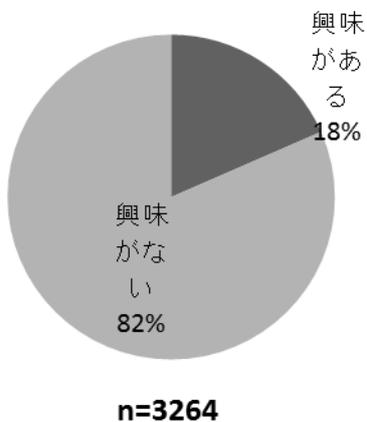
bの「効果が期待できない」という回答には、家庭教育学級の本来の目的である子育てに関する「学びあい」が見えておらず、カルチャー的なことだけをしていると誤解されているところがある。また、c「人と交わることが苦手」、e「すでにグループがあり、参加しにくい」、f「知り合いがいないことで参加しにくい」と回答した人には、家庭教育学級の目的である「仲間づくり」について理解を深めていけるよう説明していかなければならない。

問11 小学校家庭教育学級では、どのような内容を学ぶことができれば参加したくなると思いますか。次の中で興味のある内容すべてに☑をつけてください。

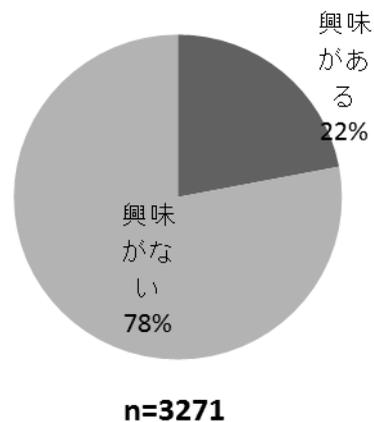
a) 学力向上や進学



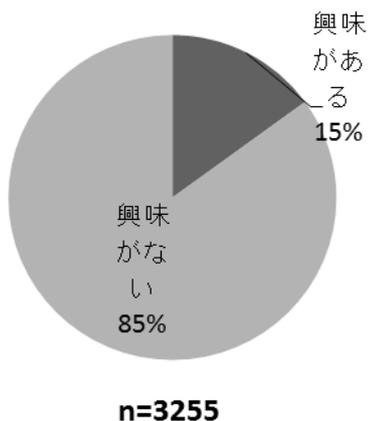
b) 子どもの体力や健康



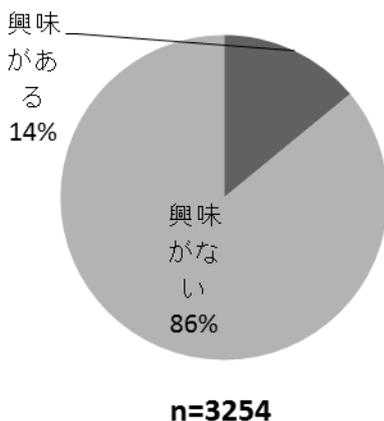
c) 子どものしつけや非行防止



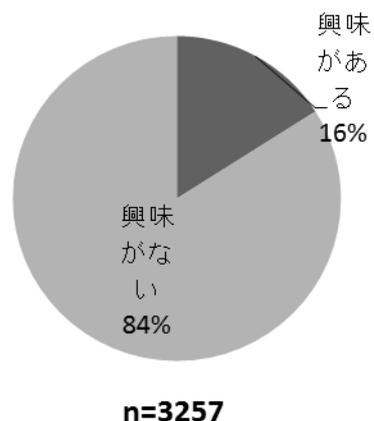
d) 親どうしの意見交換



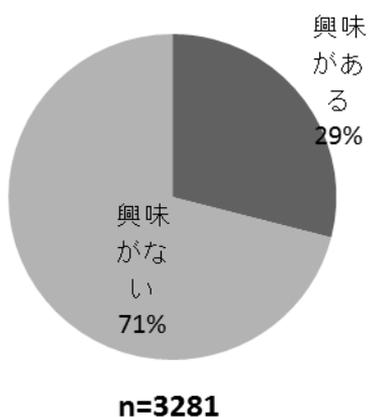
e) 悩みの相談



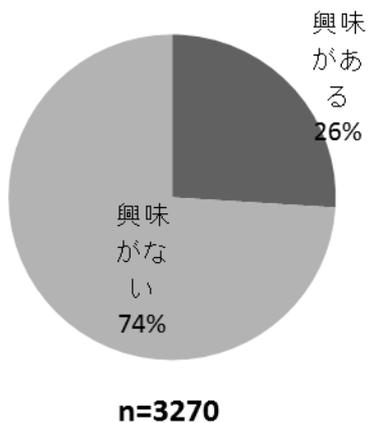
f) 親の自分力向上



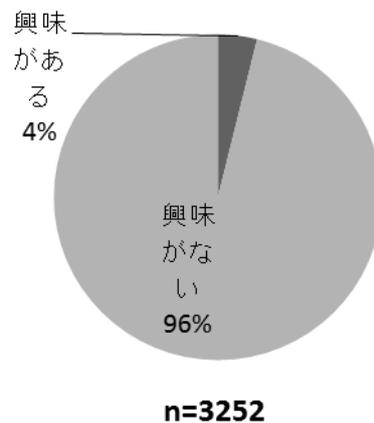
g) 体験的な学習会



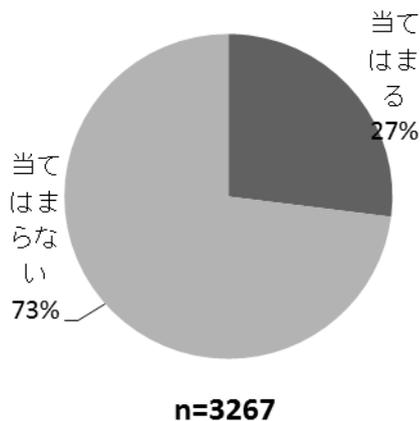
h) 親子で参加できる学習会



i) その他



j) 内容に関わらず参加した  
くない



※問 11 その他回答者

- ・ 土日曜日に行ってほしい…2 人
- ・ 性教育…2 人
- ・ 自分と同じような環境や状況の人と親身に話ができれば…1 人
- ・ 社会の仕組み、年金、保険、株など…1 人
- ・ コミュニケーションアップ…1 人
- ・ 外での活動。キャンプ、公園へ行く…1 人
- ・ 内容に関わらず日程時間次第です…1 人
- ・ 子どもだけの参加…1 人
- ・ 各学校にスクールカウンセラーがほしい。保護者、子供が悩みを打ち明けられるように。悩みの相談は学校関係者じゃない人。専門、悩みを聞いてほしい。平日しかやらないので参加できない…1 人
- ・ パソコンの使い方…1 人
- ・ 子育てについて、多くの親が共通認識しておいたほうがよい内容…1 人
- ・ 楽しみながらの運動。体を動かすこと…1 人
- ・ 子育てを経験したいろいろな方の話を聞きたい…1 人
- ・ 最新の専門的知識を持っている人がいて、誰もが「いい」と言う内容が口コミで広がるくらいなら行きたい…1 人
- ・ 内容ではなくこれを実践する動機や背景がよく見えればそのコンセプトによって決める…1 人
- ・ 子供の年齢に合った本の紹介。教育に詳しいベテランの先生の子育てに関する講演会…1 人
- ・ 硬い名前や講座などという所が参加しづらい…1 人
- ・ 科学実験教室、体育教室、水泳教室（子）…1 人
- ・ グレーゾーンの子供達達の将来のことなど…1 人
- ・ 発達障害…1 人
- ・ 反抗期の接し方…1 人
- ・ ノンフィクションの映画を見せる等…1 人

- ・モンスターペアレンツの考え方と外部（その他親へのハレーション）…1人
- ・吹奏楽などの音楽会…1人
- ・内容ではなく体制に疑問を感じるので参加したくない…1人
- ・今現在の子供達の間で思っている、感じていること…1人
- ・道徳…1人
- ・子供の興味を引く事柄…1人
- ・親子で楽しみ、絆を強くする事で子供が精神的に安定できるような学習会…1人
- ・具体的な効果成果が見込めるならば…1人
- ・他の学校と活動。同じ学校の保護者だけだと意見が偏る。世界が狭い…1人
- ・アスペルガー学習障害…1人
- ・楽しそうと思える内容…1人
- ・いじめ防止…1人
- ・親世代の教育（学習）と現在の教育（学習）の違いなど…1人
- ・デートDV…1人
- ・有識者の発するもの…1人

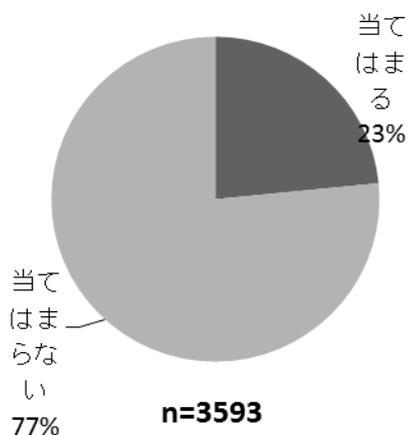
「内容に関わらず参加したくない」人が27%いる一方で、g「体験的な学習会」（29%）、h「親子で参加できる学習会」（26%）の割合も高い。現在、家庭教育学級で行われている体験学習を中心とした学習内容は、保護者の希望内容に一致するものであることを示している。

また親同士の意見交換、いわゆる「子育てサロン型の学習形態」も、今後大事になってくると思われる。お茶を飲み、菓子をつまみながら子育てについての悩みや疑問などを小グループで自由に出し合い、いろいろな人の体験や経験等を聞くことで子育てのヒントを得たり、今後の子育ての方向性を確認したりできる場として、これからも推奨したい。

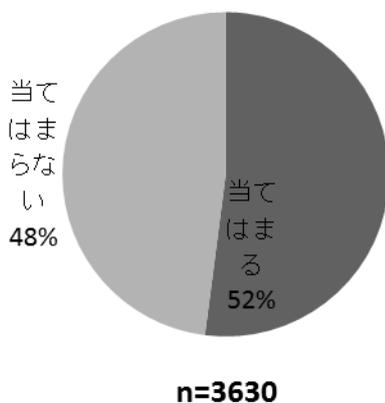
「体験的な学習会」や「親子で参加できる学習会」などできっかけづくりをし、さまざまなことを語り合える関係性をつくり（仲間づくり）、教育に関する知識や情報を得ること（学びあい）が家庭教育学級の目的である。しかし、家庭教育学級の目的である「学びあい」、「仲間づくり」の先にあるのは「自分力向上」であり、家庭教育学級に参加している人もこれから参加しようとする人も、そのために家庭教育学級で学びたいと思えるような家庭教育学級の環境にしていかなければならないだろう。

問12 小学校家庭教育学級に「参加した」あるいは「参加したいができない」と回答した方全員に伺います。次の参加理由で当てはまるものすべてについて☑をつけてください。

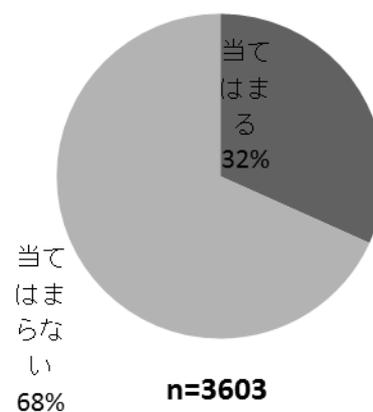
a) 学習が好き



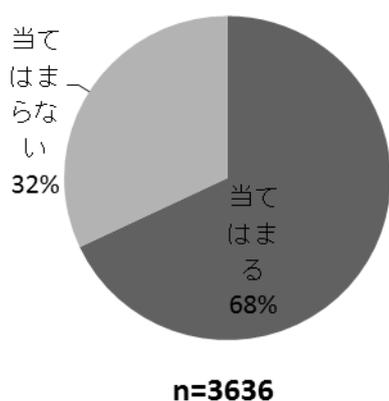
b) 保護者同士のつながりが欲しい



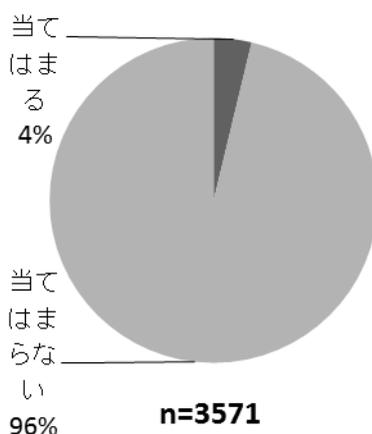
c) 異学年を持つ保護者との交流がしたい



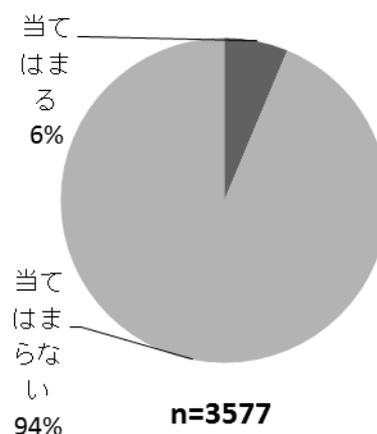
d) 教育に関する情報が入手できそう



e) 必要に迫られて



f) その他



※問12 その他回答者

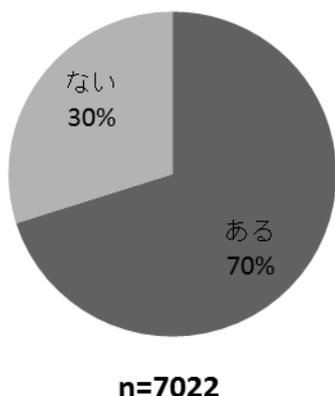
- ・楽しそう…28人
- ・友人に誘われて…19人
- ・興味があったため…18人
- ・内容に興味をひかれるから…15人
- ・子どもと一緒に参加できる企画があって楽しそうだから…9人
- ・体験したことのない事が体験できる…9人
- ・勧められたから…9人
- ・なんとなく…5人
- ・親の向上が子どもにも繋がると思うため…4人
- ・活動内容がわからないから参加した…4人

- ・参加した時は時間があつたから…3人
- ・PTA役員の参加義務によって…3人
- ・主に学校での活動だったので近くて参加しやすい。未就園児を連れていても参加OKだったため。保育がついている講座もあった…3人
- ・子供にいろいろな体験をさせたい…2人
- ・何か得るものがあると思ったから…2人
- ・知識を高めるため…2人
- ・出合いが好き…2人
- ・給食の試食会に参加したかった…2人
- ・自分力向上…1人
- ・フラダンスをやってみたかったから…1人
- ・さまざまな講習が受けられる…1人
- ・ストレス解消できる…1人
- ・親との交流はいいです…1人
- ・親が学ばなければと考えるから…1人
- ・不安な所を聞いてほしい…1人
- ・自分の悩みを解決したい…1人
- ・なかなか体験できない事が企画される…1人
- ・人生の視野を広げる…1人
- ・娘の今後が心配だから…1人
- ・外国人なのでつながりがない…1人
- ・家庭教6～7年続けています。近年親のマナーの低下もみられ、PTA役員の立場からも親が勉強して学ぶべきと強く感じています。まずは、自分が行動あるのみ…1人
- ・学校に行く用事をつくりたい…1人
- ・クラスの保護者との交流が図れるから…1人
- ・楽しそうだし、参加する保護者の方は熱心で、自分の向上にもつながりそうだったから…1人
- ・たて前が「教育に関する情報」であってもそれ以外の知識を得ることが楽しいし、結果としてつながりができる…1人
- ・周りの保護者がどのような考えを持って子どもと接しているのか知りたい…1人
- ・社会体験できる…1人
- ・子どもに関わることにはなるべく参加したいので…1人
- ・仕事をしながらだと日程をあわせられない。カルチャーセンターに行きたいが時間もお金もかかるので近くで自分の興味があるものだけ知った方と学べる…1人
- ・役員などと違い、母達で学んだり楽しみたいから…1人

参加理由として、d「教育に関する情報が入手できそう」、b「保護者同士のつながりが欲しい」、c「異学年を持つ保護者との交流がしたい」、a「学習が好き」が多かった。問7での回答と同様、保護者が子育てに関する知識や情報入手（学びあい a、d）、保護者の「仲間づくり」

(b、c) について期待していることを示しているし、これは、家庭教育学級の目的と合致している。

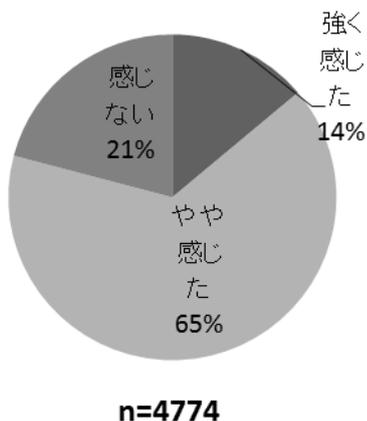
**問13** あなたは、学校が開催する学習会（個人面談・教育相談を含む）等に参加したことがありますか。該当項目に☑をつけてください。



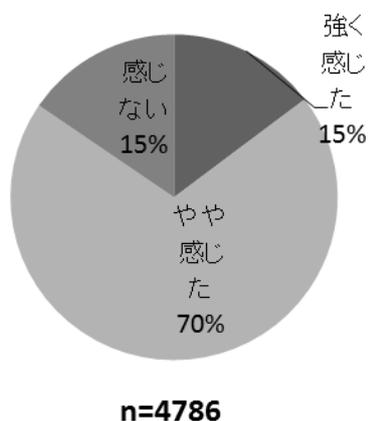
回答者に誤解があるのか、「個人面談」や「教育相談」はほとんどすべての学校で全保護者を対象として行っているので、『ある』と答えた人の割合に疑問が残る。

**問14** あなたは問13の学習会等に参加して、どのような効果を感じましたか。「強く感じた」、「やや感じた」、「感じない」の該当項目に☑をつけてください。

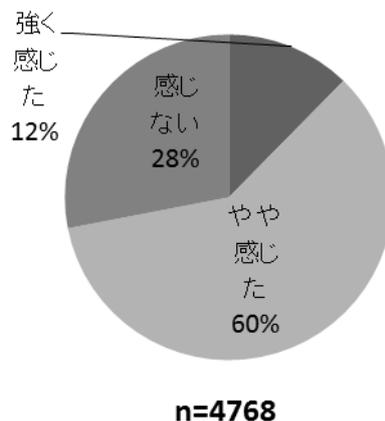
a) 悩みや不安、孤立感がなくなった。



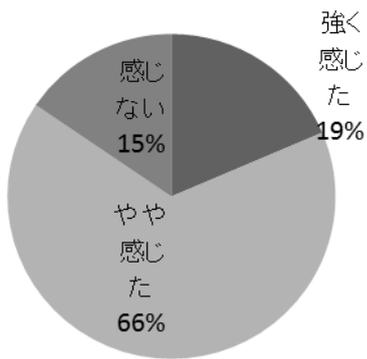
b) 必要な知識や意欲をえられた。



c) 家族で協力しながらできるようになった。

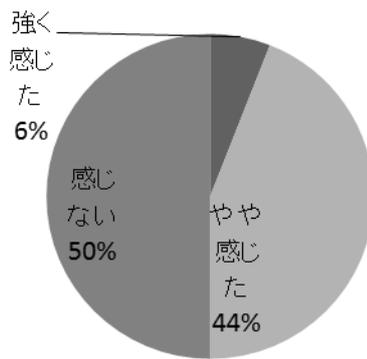


d) 学校と協力しながらできるようになった。



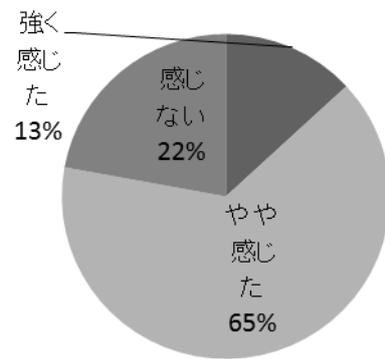
n=4791

e) 地域とつながりを持ちながらできるようになった。



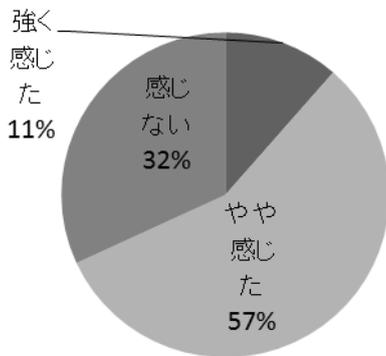
n=4757

f) 必要な情報を入手できるようになった。



n=4779

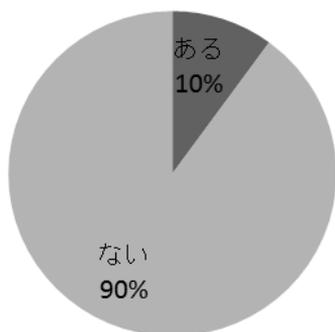
g) 身近な相手に相談できるようになった。



n=4754

子どもの教育に関して、学習に参加しての効果はあると回答している保護者が多い。学校が企画する保護者向けの学習機会がもっと有効に機能するように、内容や方法を工夫する必要があるとも思われる。また、さらに効果を上げるためにも、学校が積極的に関わっていくことが重要である。

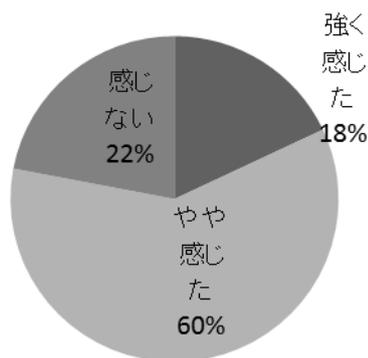
問15 あなたは、NPOや民間企業が開催する学習会等に参加したことがありますか。該当項目に☑をつけてください。



n=7062

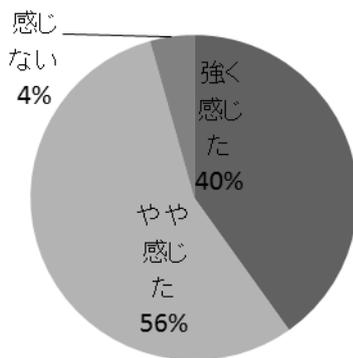
問16 あなたは問15の学習会等に参加して、どのような効果を感じましたか。「強く感じた」、「やや感じた」、「感じない」の該当項目に☑をつけてください。

a) 悩みや不安、孤立感がなくなった。



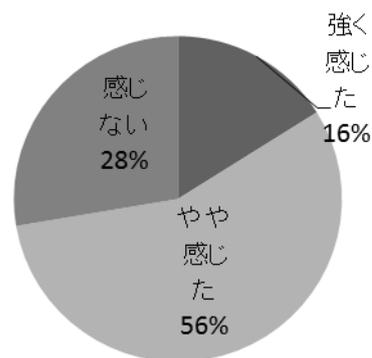
n=685

b) 必要な知識や意欲をえられた。



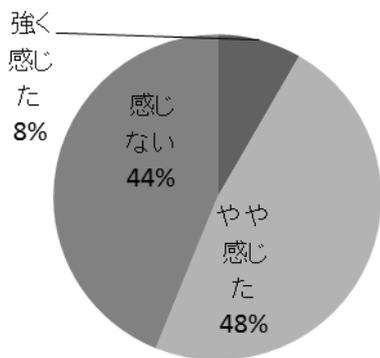
n=691

c) 家族で協力しながらできるようになった。



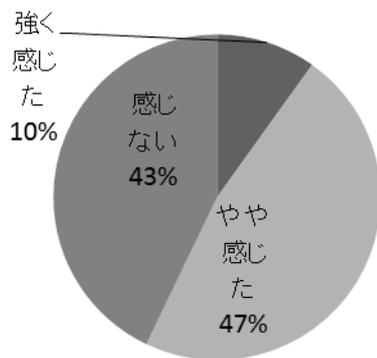
n=683

d) 学校と協力しながらできるようになった。



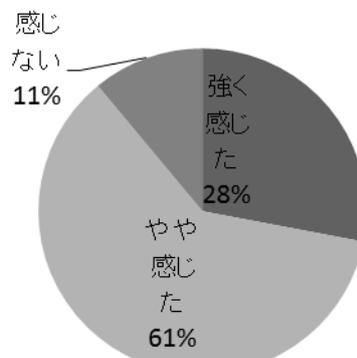
n=684

e) 地域とつながりを持ちながらできるようになった。



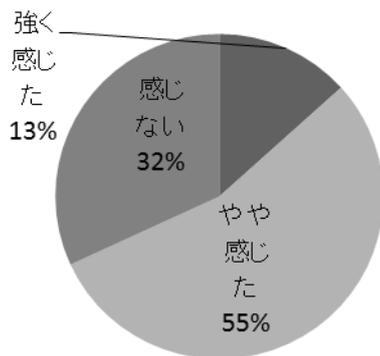
n=683

f) 必要な情報を入手できるようになった。



n=687

g) 身近な相手に相談できる  
ようになった。



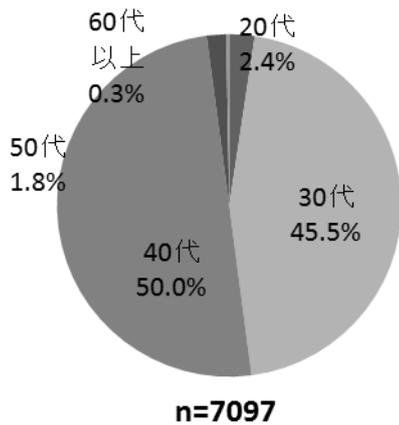
n=681

自分で学習テーマを決め、自発的に参加しているため、これだけの効果が上がるのは当然である。

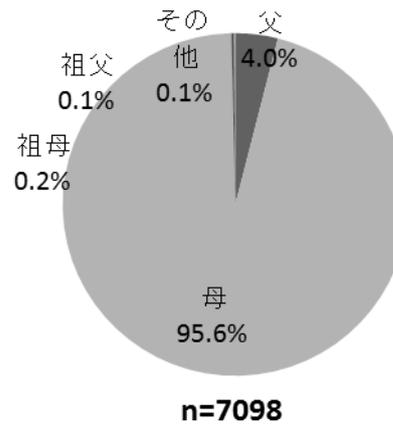
問7で「家庭教育学級」の学習会に参加した効果を聞いているが、『強く感じた』と『やや感じた』の合計の割合は、各項目を平均すると約69%、7割くらいの方が効果を感じている。

一方、「NPOや民間」の学習会等で効果を感じた割合の平均値は約74%で、だいたい7割と変わらない。自分で進んで学習に参加し、7割くらいしかないというのでは逆に少なく思われ、「家庭教育学級」に参加することがNPOや民間企業の学習会と同じような学習効果が得られていると思われる。

A) 平成25年4月1日現在あなたの年齢を教えてください。



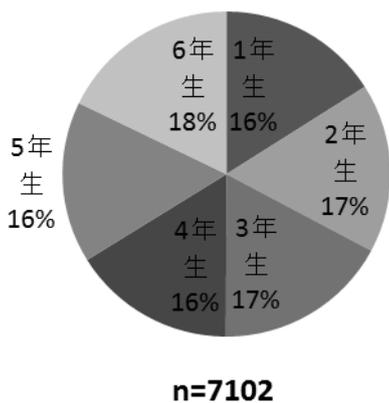
B) 児童から見ての続柄を教えてください。



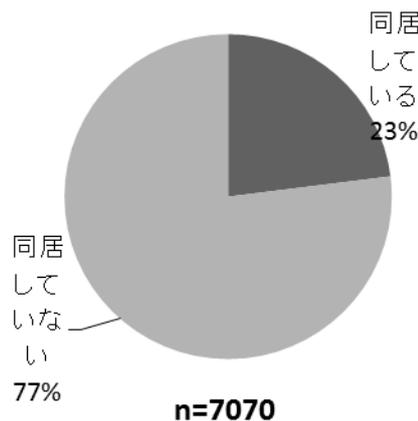
C) あなたは小学生のお子様を何人お持ちですか。

平均 1.56人  
n=7073

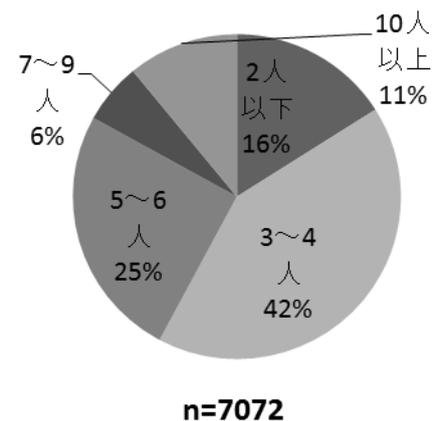
D) このアンケートをお持ちになったお子様は、現在の何年生ですか。



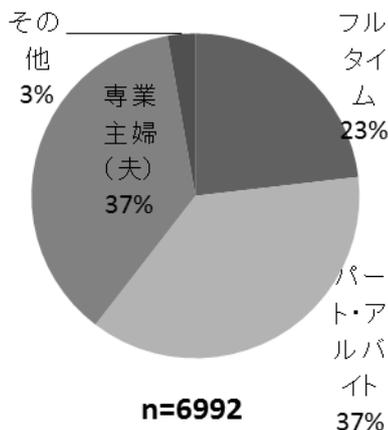
E) あなたは、ご自身あるいは配偶者の親と同居していますか



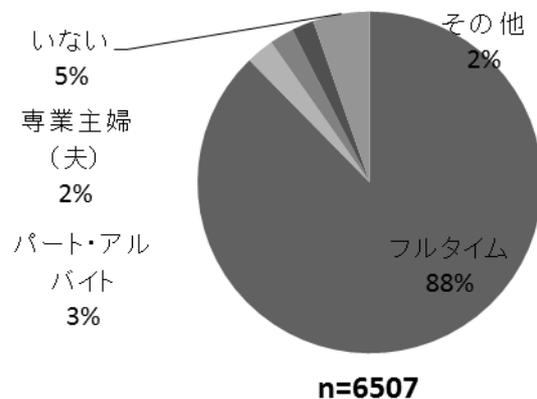
F) あなたは、子どもの教育に関して気軽に相談できる友人・知人を何人くらいお持ちですか。



G) あなたの家庭の働き方は、次のいずれに当てはまりますか。※本人



※配偶者



H ) 親子関係について、差し支えなければ教えてください。 I ) 経済状態について、差し支えなければ教えてください。

